

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔奈良県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	天理市立北中学校	16(5)	337
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	天理市立丹波市小学校	14(3)	271
	天理市立山の辺小学校	13(4)	198
	天理市立櫛本小学校	18(4)	340

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをするのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	300	43.3	36.0	15.3	5.3	54.5	36.1	7.4	2.0	27.7	50.0	18.7	3.7	16.7	53.7	23.0	6.7
		前年②	295	39.3	41.0	11.5	8.1	46.4	39.0	9.2	5.4	18.6	56.9	19.3	5.1	13.3	48.0	26.9	11.9
		本年①	318	41.8	42.1	11.3	4.7	50.3	38.1	7.9	3.8	19.2	54.1	21.1	5.7	12.3	53.0	24.9	9.8
		本年②	316	38.0	44.9	11.4	5.7	46.8	39.6	7.9	5.7	15.9	52.9	24.5	6.7	10.2	41.7	32.8	15.3
	3	中2①	104	36.5	40.4	17.3	5.8	53.8	37.5	6.7	1.9	27.9	47.1	22.1	2.9	13.5	51.9	28.8	5.8
		中2②	104	42.3	37.5	12.5	7.7	43.3	40.4	13.5	2.9	16.3	55.8	20.2	7.7	10.7	42.7	27.2	19.4
		中3①	102	40.2	38.2	13.7	7.8	49.0	39.2	7.8	3.9	15.7	54.9	22.5	6.9	4.9	43.1	34.3	17.6
		中3②	98	35.7	41.8	13.3	9.2	44.9	41.8	7.1	6.1	25.5	53.1	13.3	8.2	13.3	38.8	27.6	20.4
	2	中1①	97	41.2	37.1	16.5	5.2	53.1	37.5	6.3	3.1	20.6	52.6	20.6	6.2	20.6	52.6	18.6	8.2
		中1②	100	33.0	42.0	14.0	11.0	43.0	40.0	9.0	8.0	19.0	55.0	22.0	4.0	17.0	46.0	31.0	6.0
		中2①	93	35.5	43.0	16.1	5.4	44.1	37.6	11.8	6.5	21.5	51.6	21.5	5.4	14.0	58.1	21.5	6.5
		中2②	95	32.6	47.4	13.7	6.3	44.2	38.9	10.5	6.3	12.8	61.7	22.3	3.2	8.5	48.9	34.0	8.5
	1	小6①	150	50.0	37.3	9.3	3.3	60.7	30.7	8.0	0.7	27.3	39.3	30.0	3.3	34.7	50.0	12.7	2.7
		小6②	146	48.6	37.0	8.2	6.2	64.4	28.8	5.5	1.4	21.2	50.7	19.9	8.2	35.6	47.3	10.3	6.8
		中1①	123	48.0	44.7	5.7	1.6	56.1	37.4	4.9	1.6	20.3	55.3	19.5	4.9	17.2	57.4	19.7	5.7
		中1②	123	43.9	45.5	8.1	2.4	50.4	38.2	6.5	4.9	10.7	45.9	35.2	8.2	9.0	38.5	36.1	16.4
小学校	高学年計	前年①	300	43.0	42.7	10.7	3.7	61.7	30.7	6.7	1.0	26.7	42.7	26.7	4.0	37.8	47.2	12.7	2.3
		前年②	293	46.8	39.2	8.5	5.5	63.8	27.6	6.8	1.7	21.9	50.0	21.9	6.2	37.7	42.5	14.4	5.5
		本年①	302	52.3	35.1	7.3	5.3	65.6	28.8	4.0	1.7	26.5	54.0	14.2	5.3	51.0	36.4	8.3	4.3
		本年②	300	54.7	34.3	7.3	3.7	74.1	21.3	3.3	1.3	29.2	49.8	18.3	2.7	44.9	41.2	12.0	2.0
	6	小5①	150	36.0	48.0	12.0	4.0	62.7	30.7	5.3	1.3	26.0	46.0	23.3	4.7	40.9	44.3	12.8	2.0
		小5②	147	44.9	41.5	8.8	4.8	63.3	26.5	8.2	2.0	22.6	49.3	24.0	4.1	39.7	37.7	18.5	4.1
		小6①	152	48.7	36.8	9.2	5.3	56.6	36.8	5.3	1.3	23.7	59.9	12.5	3.9	48.7	40.1	7.9	3.3
		小6②	151	53.0	36.4	6.6	4.0	72.8	23.8	2.6	0.7	25.2	55.6	15.9	3.3	37.7	47.7	11.9	2.6
	5	小5①	150	56.0	33.3	5.3	5.3	74.7	20.7	2.6	2.0	29.3	48.0	16.0	6.7	53.3	32.7	8.7	5.3
		小5②	149	56.4	32.2	8.1	3.4	75.3	18.7	4.0	2.0	33.3	44.0	20.7	2.0	52.0	34.7	12.0	1.3

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押し				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	算 科	本年①	318	84.2	10.1	2.2	3.5	78.8	14.2	3.5	3.5	79.7	13.6	3.5	3.2	80.6	14.0	2.2	3.2
		本年②	313	81.5	11.5	2.6	4.5	79.5	14.7	2.6	3.2	82.4	12.5	1.9	3.2	81.7	13.5	2.6	2.2
	3	中3①	102	90.2	6.9	2.0	1.0	88.2	7.8	2.9	1.0	90.2	6.9	2.0	1.0	90.1	7.9	1.0	1.0
		中3②	97	86.6	7.2	0.0	6.2	85.6	8.2	1.0	5.2	88.7	6.2	0.0	5.2	86.6	9.3	0.0	4.1
	2	中2①	93	74.2	14.0	3.2	8.6	62.4	24.7	6.5	6.5	67.7	17.2	6.5	8.6	67.7	21.5	3.2	7.5
		中2②	94	76.6	14.9	4.3	4.3	73.1	19.4	6.5	1.1	81.7	14.0	3.2	1.1	83.9	11.8	3.2	1.1
	1	中1①	123	86.8	9.9	1.7	1.7	83.5	11.6	1.7	3.3	80.2	16.5	2.5	0.8	82.6	13.2	2.5	1.7
		中1②	122	81.1	12.3	3.3	3.3	79.5	16.4	0.8	3.3	77.9	16.4	2.5	3.3	76.2	18.0	4.1	1.6
小学校	算 科	本年①	302	68.9	18.9	5.6	6.6	65.2	22.8	5.6	6.3	74.8	18.2	4.2	2.8	70.2	22.8	3.3	3.6
		本年②	301	72.1	18.9	6.3	2.7	68.4	23.6	4.7	3.3	74.8	21.3	2.7	1.3	72.0	22.3	3.7	2.0
	6	小6①	152	68.4	21.1	5.3	5.3	65.8	21.7	4.6	7.9	70.4	19.1	7.2	3.3	67.8	21.7	5.3	5.3
		小6②	151	66.9	21.9	7.3	4.0	70.9	23.2	2.6	3.3	70.2	22.5	4.6	2.6	66.9	25.2	4.6	3.3
	5	小5①	150	69.3	16.7	6.0	8.0	64.7	24.0	6.7	4.7	79.3	17.3	1.3	2.0	72.7	24.0	1.3	2.0
		小5②	150	77.3	16.0	5.3	1.3	66.0	24.0	6.7	3.3	79.3	20.0	0.7	0.0	77.2	19.5	2.7	0.7

※小学校は、連携校の合計

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

4 課題・目標・取組

課題	学習習慣等の問題により基礎学力定着が不十分であり、自主性・主体性等の弱さから集団への適応力や人間関係づくりに課題がある。
目標	互いを認め合う集団を育成し、児童生徒一人一人が活躍し、自己を表現し、学びへの意欲を培う魅力ある学校づくりを推進する。
取組	互いの特性を認め合う集団づくりを基盤に、一人一人が生き生きと活躍する学校行事や体験活動を推進し、授業の改善と充実を図る。

5 重点推進事項

小・中共通	<p>①【授業改善と授業規律の確立】各校において公開授業を実施し、小・中、小・小が、互いの学校の授業の様子、児童生徒の様子を知る機会を増やすとともに、指導力向上、分かりやすい授業づくりに取り組む。また、小・中9年間を見通した授業規律を確立し、学習意欲と学力の向上を図る。</p> <p>②【体験活動の充実】校区の児童生徒が共通して抱える課題（自主性・主体性等の弱さ）をより明確にし、体験活動を通してその課題を克服するという視点を、小・中で共通理解しつつ、各校で魅力ある行事、学習活動の取組の更なる充実を図る。</p> <p>③【互いを認め合う集団づくり】児童生徒が互いの取組や努力を認め合い、一人一人がつながり合う集団づくりを更に進める。</p>
中学校	①【学校行事、学年行事の充実】生徒一人一人が生き生きと取り組める機会となるよう、行事の在り方を検証・改善する。
小学校	<p>①【学習基盤の確立】家庭との連携の強化、「授業ルール」や「生活がんばり表」の活用、自尊感情を高める活動の工夫等により、学習意欲の向上・学習規律の確立・学習習慣の定着についての指導を進め、学習基盤の確立を図る。（全校）</p> <p>②【児童の主体的な体験活動の推進】地域人材等を活用した体験学習を積極的に実施するとともに、保・幼・中との連携を更に推進し、児童の主体性や意欲を引き出す楽しく有意義な体験活動を充実させる。（全校）</p> <p>③【家庭・地域等との連携】保護者との信頼関係を築き、適切な支援を行う。また、家庭・地域等との連携強化を図るための地域連携の在り方を探る。（全校）</p>

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
○小・中ともにイ「みんなで何かをするのは楽しい」に対する肯定的回答の割合が、高い水準であった。	・イ「みんなで何かをするのは楽しい」の成果については、集団づくりに力を入れたことが、その要因と考えられる。
○小学校でア「学校が楽しい」に対する肯定的回答の割合が、数値としては僅かだが増加した。	・ア「学校が楽しい」の成果については、体験学習の充実が、その要因と考えられる。今後、学力向上の取組が更に進展することで、より高い成果が期待できる。

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
●小・中ともにエ「授業がよくわかる」に対する肯定的回答の割合が、減少した。また、中学校1年生でウ「授業に主体的に取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合が、減少した。	・エ「授業がよくわかる」、ウ「授業に主体的に取り組んでいる」の課題については、学習基盤の確立が十分でなかったことが、その要因と考えられる。今後、授業規律の定着等について、小・中で共通して取り組むことにより、成果につなげたい。

7 2年間の調査研究の成果と課題

[小・中共通]

①【授業改善と授業規律の確立】

○小・中ともに、それぞれの課題に沿って授業研究を進めることができた。(要因：教員間で授業研究の重要性を共通理解することができた。)

●研究授業の学校間公開を行えるようになったが、十分とは言えない。今後、工夫が必要である。(要因：各校間の日程調整が困難である。)

②【体験活動の充実】

○小・中各校で、児童生徒の自主性・主体性を育む魅力ある学校行事、体験活動の充実を図ることができた。また、児童会・生徒会による挨拶運動や、学校生活向上のための委員会活動等に取り組むことにより、児童生徒の自発的な活動が進められ、成果を上げた。(要因：児童生徒が互いの取組や努力を認め合い、一人一人がつながり合う集団づくりに努めた。)

○保・幼・小交流会や「北中オープンスクール」等、幼児児童生徒の校種間交流を推進することができた。また、それらの行事の実施により、教員の交流・連携も進んだ。(要因：行事の実施にあたり、担当者間で綿密な打ち合わせを行い、教員の共通理解に基づいた組織的対応を行うことができた。)

○それぞれの実施計画に基づき、児童生徒にとって魅力ある行事や体験活動を実施し、児童生徒の自主性・主体性を培うことができた。(要因：行事や活動について、企画立案に児童生徒の考えや発想を反映させる工夫や、運営に児童生徒が主体的にかかわることができる工夫を行った。)

③【互いを認め合う集団づくり】

○児童生徒が互いの取組や努力を認め合う、「なかま集会」や「人権デー」などを通して一人一人がつながり合う集団づくりを進めることができた。(要因：教職員間で、互いを認め合う集団づくりの重要性を共通理解して取り組むことができた。)

[中学校]

①【学校行事、学年行事の充実】

○生徒一人一人が生き生きと活動できる機会を多くもつことができた。(要因：事前指導を十分にを行い、行事に対する生徒の意欲を高めた。)

[小学校]

① 【学習基盤の確立】

- 「家庭学習の手引き」(保護者用)・「家庭学習の4つのやくそく」(低学年用・中学年用・高学年用)を作成し、全家庭に配布し、家庭学習の習慣化を図った。(全校) (要因:家庭学習に関するプリントを活用し、保護者や児童に対して家庭学習の習慣化を啓発した。)
- 『学び合い』をめざした授業づくり」を主題に授業研究を行い、全教科の授業において小グループでの活動を大切にすることで、聴き合えるなかま集団が育ってきた。(丹波市小) (要因:児童の「学び合い」を推進し、教員の同僚性を高める工夫を行った。)
- 児童の「聞く・話す力」を高めるための授業研究を行い、児童が自分の言葉で積極的に表現するなど、児童の学習意欲を高めることができた。(山の辺小) (要因:児童の実態に基づいた研究主題を設定し、教員間で共通理解した。)
- 児童の「伝え合う力」を高めるための指導と評価の一体化を目指した授業研究を行うとともに、「学習10のきまり」を用いて継続的に指導したことより、学習基盤の確立が進んだ。(樺本小) (要因:児童の実態に基づいた研究主題を設定し、継続的な指導を行った。)
- 児童会が中心となって提案した「学習ルール」を定着させ、児童の「学習習慣を大切にする心」を育てていく必要がある。(丹波市小) (要因:「学習ルール」を啓発する期間と機会が十分ではなかった。)
- 基本的な学習習慣の定着を図るための家庭との連携について、更なる検討が必要である。(山の辺小、樺本小) (要因:学校としての情報発信と保護者への啓発が十分ではなかった。)

② 【児童の主体的な体験活動の推進】

- 「秋のわくわく祭り」や「冬の大集会」等の行事において、児童会・委員会の主体的な活動を活発にするようにし、互いのつながりを更に深めることができた。(全校) (要因:児童が互いの取組や努力を認め合い、一人一人がつながり合う集団づくりに努めた。)

③ 【家庭・地域との連携】

- 学校・家庭・地域が一体となって、「灯火会」等の学校行事や体験活動を実施し、児童の生き生きと活動する姿が見られた。(樺本小) (要因:教員間の役割分担、学校と連携先との役割分担を明確化して取り組んだ。)

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

- ・・・予定どおり実施
- △・・・時期を変更して実施又は実施予定
- ◇・・・計画書にはないが新たに実施
- ×・・・実施しなかった

<平成24年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	校内推進委員会 (全小) 全校読書タイム (全小) 挨拶運動 (毎月15日、全小)	○ ◇ ◇	第1回連絡協議会 校内推進委員会 第1回小・中連絡協議会【小・中合同】	○ ○ ○
5月	児童意識調査 (全小) 市教委・県教委学校訪問 (全小) 保・幼・小交流「わくわくドキドキ集会」(山の辺小)	○ ○ ◇	生徒意識調査 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 第1回調査研究委員会【小・中合同】 広報用リーフレット作成	○ ○ ○ ○ △
6月	保護者意識調査 (全小) 総括研究官学校訪問 (全小) 「先輩に聞く」(樺本小)	○ ○ ○	保護者意識調査 総括研究官学校訪問 校内推進委員会 第2回小・中連絡協議会【小・中合同】	△ ○ ○ ○
7月	地域とつなぐ「灯火会」(樺本小)	◇	校内推進委員会 第2回調査研究委員会【小・中合同】 「先輩に聞く」	○ ○ △

8月	「地域の方々に学ぶ」(丹波市小)	△	校内推進委員会 第3回小・中連絡協議会【小・中合同】 小・中合同研修会【小・中合同】	○ △ ○
9月	市教委・県教委学校訪問(全小)	○	市教委・県教委学校訪問 総括研究官学校訪問 校内推進委員会 第3回調査研究委員会【小・中合同】	○ ○ ○ ○
10月	「先輩に聞く」(樺本小)	○	ブロック協議会 校内推進委員会 第4回小・中連絡協議会【小・中合同】 「地域人材を招いてのキャリア教育行事」	○ ○ ○ ○
11月	児童意識調査(全小) 市教委・県教委学校訪問(全小) 「地域の方々に学ぶ」②(丹波市小) 保・幼・小交流「リズムにのってワッハッハ」 「ふれあい体験教室」 「人権集会」(以上、山の辺小) 創立140周年記念式典 1・2年生交流「おもちゃランド」 特老「福寿荘」との交流会(以上、樺本小)	△ ○ △ ◇ ○ ◇ ◇ ◇ ◇	生徒意識調査 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 オープンスクール(全小6年対象)【小・中合同】	△ ○ ○ ◇
12月	保護者意識調査(全小) 全校冬の大集会「お店ラリー」(樺本小)	× ◇	保護者意識調査 校内推進委員会 第4回調査研究委員会【小・中合同】 第5回小・中連絡協議会【小・中合同】	× ○ ○ △
1月			校内推進委員会	○
2月	市教委・県教委学校訪問(全小) 「奈良の子どもの未来を拓く道徳教育推進事業」公開授業(山の辺小)	○ ○	第2回連絡協議会 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 第6回小・中連絡協議会【小・中合同】 校内研究会実施 県研究会報告	○ ○ ○ ○ ○ ×
3月			校内推進委員会 第5回調査研究委員会【小・中合同】	○ ×

<平成25年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	校内推進委員会(全小) 挨拶運動(樺本小・全学年/毎月15日)	○ ○	第1回連絡協議会 校内推進委員会 第1回小・中連絡協議会【小・中合同】	○ ○ △
5月	第1回児童意識調査実施(全小) 市教委・県教委学校訪問(全小) 「人権なかよし集会」(丹波市小・全学年) 保・幼・小交流会(山の辺小・1年) 保・幼との「お楽しみ交流会」(樺本小・1年) 添上高校と連携しての体力測定(樺本小・全学年)	○ ○ ◇ ○ ○ ◇	事業通信「四つ葉」発行 第1回生徒意識調査実施 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 第1回調査研究委員会【小・中合同】	× ○ ○ ○ △
6月	保護者意識調査実施(全小) 「地域の方々に学ぶ」(丹波市小・2年、5年) 「田植え体験」(山の辺小・5年) 「田植え体験」(樺本小・5年) 「古墳探検」(樺本小・6年) 高齢者施設福寿荘との交流会「みんなで歌おう会」(樺本小・全学年)	△ ○ ◇ ○ ○ ○	保護者意識調査実施 校内推進委員会 第2回小・中連絡協議会【小・中合同】	△ ○ △

7月	チェックシート作成 (全小) 「邦楽ワークショップ」(櫛本小・全学年) 地域をつなぐ「灯火会」(櫛本小・全学年)	○ ◇ ○	事業通信「四つ葉」発行 チェックシート作成 校内推進委員会 第2回調査研究委員会【小・中合同】 「先輩に聞く」(1年)	○ ○ ○ × △
8月	親子奉仕作業 (全小) 「人権なかよし集会」(丹波市小・全学年) 学級の実態交流 (山の辺小・全学年) 平和登校日 (櫛本小・全学年)	○ ◇ ◇ ◇	校内推進委員会 第3回小・中連絡協議会【小・中合同】 小・中合同研修会【小・中合同】	○ △ ○
9月	市教委・県教委学校訪問 (全小) 挨拶運動 (山の辺小・地域連携/以降毎月2回実施)	○ ◇	事業通信「四つ葉」発行 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 第3回調査研究委員会【小・中合同】	○ ○ ○ ○
10月	P T A「てんてんまつり」(丹波市小・全学年) 幼稚園との交流 (山の辺小・3年) 「稲刈り体験」(櫛本小・5年) 「おもちゃランド」(櫛本小・2年) 「邦楽入門コンサート」(櫛本小・全学年)	○ ◇ ○ ○ ○	校内推進委員会 第4回小・中連絡協議会【小・中合同】 「地域人材を招いてのキャリア教育行事」(2年)	○ ○ ○
11月	第2回児童意識調査実施 (全小) 保護者意識調査実施 市教委・県教委学校訪問 (全小) 保・幼・小交流出前授業 (丹波市小・1年) 「人権・なかよし集会」(丹波市小・全学年) 授業交流 (山の辺小・全学年) 保・幼・小交流会 (山の辺小・4年) 「ふれあい体験教室」(山の辺小・全学年) 「山小オープンスクール」(山の辺小・全学年) 人権集会 (山の辺小・全学年) 「福寿荘との交流会」(櫛本小・3年) 「親子芸術鑑賞会」(櫛本小・全学年)	○ ○ ○ ○ ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ◇	事業通信「四つ葉」発行 ブロック協議会 第2回生徒意識調査実施 保護者意識調査実施 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 「北中オープンスクール」(全小6年対象)【小・中合同】	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
12月	チェックシート作成 (全小) 授業交流 (山の辺小・全学年) P T A親子人権学習会 (山の辺小・全学年) 「冬の大集会」(櫛本小・全学年)	○ ◇ ◇ ○	チェックシート作成 校内推進委員会 第4回調査研究委員会【小・中合同】 第5回小・中連絡協議会【小・中合同】	○ ○ × ○
1月	新春コンサート (山の辺小・全学年) 「琴・尺八教室」(櫛本小・6年) 保・幼との「たこあげ交流会」(櫛本小・1年) (丹波市小・1年)	◇ ○ ○	校内推進委員会	○
2月	市教委・県教委学校訪問 (全小) 「人権・なかよし集会」(丹波市小・全学年) 「地域の方々に学ぶ」(丹波市小・6年) 「はにわ祭り」(櫛本小・全学年) 「茶道教室」(櫛本小・6年)	○ ○ ○ ○ ○	事業通信「四つ葉」発行 第2回連絡協議会 市教委・県教委学校訪問 校内推進委員会 第6回小・中連絡協議会【小・中合同】 校内研究会実施 研究紀要作成 県中学校生徒指導研究会報告	× ○ ○ ○ ○ × ○ ×
3月	6年生を送る会 (全小)	○	校内推進委員会 第5回調査研究委員会【小・中合同】	○ ○

(2) 重点推進事項の実施状況

[小・中共通]

①【授業改善と授業規律の確立】

小・中、小・小が、互いに授業公開することで、それぞれの学校の状況や児童生徒の様子を把握できるようになった。また、研究協議等を通しての指導力向上やわかりやすい授業づくりへの取組が、児童生徒の学習意欲や学力の向上につながり、小学校中学年でのおつまづきや「中1ギャップ」の未然防止となるよう努めた。



①【授業改善と授業規律の確立】

学校生活全般（授業、集会活動、行事等）を通して「聴くことのできる児童」、「つながることができる児童」、「学ぶことができる児童」を育てていくことをテーマに「学び合い」を目指した授業研究を重ねている。写真は、6月に「どの子ども安心して自分の意見が言える授業づくり」を授業テーマとして行った、4年生算数科の研究授業の様子である。（丹波市小）



②【体験活動の充実】

小学校から中学校への接続がよりスムーズになるように、北中学校において3小学校6年生を対象に「北中オープンスクール」を実施し、授業体験や部活動体験の機会をつくった。児童の誘導や、配布物・掲示物の準備を中学生に担当させ、中学生の自尊感情を高めることもねらいとした。



③【互いを認め合う集団づくり】

「信頼し合えるなかまをつくろう」をテーマに「全校なかよし集会」を行った。5・6年生から募集した実行委員が集会を企画・進行し、1・3・6年生が人権に関する普段からの取組を発表した。集会後は学級ごとに学びを振り返り、メッセージカードを送り合った。（丹波市小）



③【互いを認め合う集団づくり】

道徳教育の研究指定を受け、自尊感情を高めることを目標に「自分が好き 友だちが好き みんな大好き」を研究テーマとして取り組んだ。ロールプレイや話し合い活動を通して児童の心情面を高めることができるよう、研究を重ねた。（山の辺小）



[中学校]

①【学校行事、学年行事の充実】

「職場体験学習」において、地域の人々との交流の中で仕事を体験することが生徒の自尊感情を高めるとともに、働くことの素晴らしさや勤労の意義を理解することにつながった。また、仕事を成し遂げた自信が、自らの進路実現に向けて学力や基本的な生活習慣を向上させる意欲につながることもねらいとした。



[小学校]

①【学習基盤の確立】（小・小連携）

児童の望ましい学習習慣の定着と学力向上を目指し、3小学校共通の「家庭学習の手引き」（保護者用）・「家庭学習4つのやくそく」（児童用）を作成し、全校配布した。これを基に、学校と家庭が協働した児童の学習基盤確立のための取組を推進している。（全校）



②【児童の主体的な体験活動の推進】

児童の自主性・主体性の向上を図るために、児童会行事の活性化に取り組んだ。秋の全校集会「わくわくまつり」は、学級ごとに「お店」を企画・運営し、児童の意見が具現化される行事とした。「お店」を開く側と客となる側の両方を体験し、異学年とも交流する中で、なかまを大切にし、共に楽しむ心を育てることができた。（丹波市小）



②【児童の主体的な体験活動の推進】

児童の自主性・主体性を培うために、児童会活動を活性化してきた。活動においては、児童の発想を大切に、児童が主体的に取り組めるよう支援した。6つの委員会が中心となって集会活動等（計画委員会「業前遊び」、図書委員会「図書室まつり」、環境委員会「校内オリエンテーリング」等）を行い、児童の生き生きと活動する姿が増えてきた。（山の辺小）



②【児童の主体的な体験活動の推進】

全校児童が楽しめる集会活動として、「冬の大集会」を行った。高学年児童が「お店」を運営し、全校児童がその「お店」を訪問して楽しむ「お店ラリー」を通して児童の自主性・主体性を育て、異学年間の交流により互いのつながりを深めることができた。高学年児童は、多くの人に楽しんでもらえるような「お店」づくりを目指し、生き生きと創意工夫していた。（櫛本小）



③【家庭・地域等との連携】

「地域と学校をつなぐふるさと埴輪の灯り」をテーマに、毎年7月、「櫛本祇園祭」の日に「灯火会」を行っている。校区に点在する古墳とその周辺から発掘された埴輪にちなみ、児童の作った埴輪750個、キャンドルカップ700個を運動場に並べ、ろうそくに灯りをつけると、幻想の世界が広がる。毎年、保護者はもちろん地域の方々も多く参加され、地域と学校とをつなぐ貴重な機会となっている。（櫛本小）



9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所	活動内容
4 (1) 事業全般	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗状況の調整 ・外部機関等との連携及び相談

4 (2)	小・中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中の定期的な情報交換会の実施・運営 ・小・中が連携した児童生徒支援の連絡調整
	小・小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小・小連携促進への支援
4 (3)	データ収集、分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒意識調査実施及び分析
4 (4)	取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者意識調査実施及び分析 ・不登校生徒の出現率の比較 ・研究会での報告
4 (5)	資料作成、広報等	<ul style="list-style-type: none"> ・広報用リーフレット作成及び配布 ・研究紀要の作成

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・事業担当者や管理職同士の話し合いの機会を多くもつことで、事業運営が円滑に進んだ。また、メール等の連絡・調整上の垣根も低くなるという効果も生まれ、小・中連携、小・小連携によるスムーズな事業推進が図られた。
- ・各行事の目的を、より明確に意識化して取り組むことができた。
- ・児童生徒の意識を、数値的な変化で捉えることができるようになった。
- ・連絡協議会を通して全国の取組を知ることができ、校区全体の取組や各校の取組に活かすことができた。
- ・「四つ葉プロジェクト」推進の中で、学校・地域コーディネーター同士の連携も始まり、合同会議を開いたり、互いの取組を交流したりするなど、他地域にない連携関係が生まれた。

<課題>

- ・本事業に関する理解・意識は、各校教員の中でも「温度差」があり、今後の取組を通して更なる浸透を図る必要がある。
- ・「小中合同研修会」等を契機とし、小・中の教科における連携や小・中教員が共同して取り組む事業の広がりを創出する必要がある。
- ・「家庭学習の4つのやくそく」についての定着の手立てを具体的に進める必要がある。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

[重点推進事項]

- ・県教育委員会及び拠点校、連携校との連絡・調整を密にし、円滑な事業推進を図る。特に、教職員全体の意識を高めながら本事業に関する共通理解を図り、学校全体、校区全体で本事業を推進できるように適切な助言を行う。
- ・拠点校、連携校を計画的に訪問し、事業の進捗状況を確認するとともに、小・中連携、小・小連携の具体的な取組について指導助言し、教職員の意識改革を視野に入れながら、事業内容の推進、充実を図る。

[課題と成果]

- 県教育委員会及び拠点校、連携校と連絡・調整を図り、円滑に事業を推進することができた。
- 拠点校、連携校を積極的に訪問し、事業の進捗状況を確認するとともに、事業の充実に向けて指導助言することができた。
- 「児童生徒が主体的に取り組もうとする意欲の向上を図り、拠点校及び連携校教職員の共通理解を図る」という『事業通信』の役割について助言し、その充実を図ることができた。
- 「小中合同研修会」では、拠点校及び連携校教職員全体の本事業に関する共通理解を深めるため助言し、本事業を積極的に推進しようとする意欲を高めることができた。
- 拠点校と連携校の交流による研究授業で指導・助言を行い、分かりやすい授業づくりのために積極的に授業改善を推進しようとする意欲を高めることができた。
- 拠点校及び連携校の具体的な取組について、指導助言を十分に行えなかった。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・国立教育政策研究所及び市教育委員会、拠点校、連携校との連携を密にし、円滑な事業推進を図る。また、市教育委員会と連携して、拠点校及び連携校の教職員の本事業に対する意識高揚に関する方策を講じる。
- ・拠点校及び連携校に積極的に訪問し、事業の進捗状況を確認するとともに、市教育委員会及び拠点校、連携校に対して、他都道府県、他市町村の取組や先進的な事例に関する情報を積極的に提供し、事業の充実に向けて指導助言を行う。
- ・他市町村の教育委員会や学校等に対し、本事業の取組を積極的に紹介し、小・小連携、小・中連携の推進を図る。

〔課題と成果〕

- 国立教育政策研究所及び市教育委員会、拠点校、連携校と緊密に連携し、円滑な事業推進に寄与することができた。
- 他府県の本事業指定地域と交流・情報交換を行い、事業の充実を図ることができた。
- 他市町村の教育委員会、学校等に対する本事業の紹介を、十分には行えなかった。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考 (主な職名等)
奈良県教育委員会	1	生徒指導支援室指導主事
天理市教育委員会	2	学校教育課指導主事 教育総合センター指導主事
天理市立北中学校	9	校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、学年主任、 事業担当者、養護教諭 (教育相談担当兼任)
各 連 携 校	6	校長、事業担当者

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・委員の中核を成す拠点校、連携校の事業担当者及び管理職が頻繁に顔を合わせ、事業について共通理解を深めたり、事業推進に対するアイデアを出し合ったりできた。そのことが、事業推進の大きな力になったと実感している。
- ・県教委、市教委の適時の指導助言や事業推進の方向性についてのアイデアを受けることができたことは、大きな支えとなった。

<課題>

- ・委員の日程調整の難しさがあった。

12 作成資料等

<平成24年度>

- 「四つ葉プロジェクト」リーフレット (既に提出済)

<平成25年度>

- 研究紀要 (今回添付)

13 関連URL

連携校・櫛本小学校HP「魅力ある学校づくり調査研究事業」のコーナー

<http://ed.city.tenri.nara.jp/ichinomoto-el/index.cfm/1,0,38,html>

【問い合わせ先】

所属	奈良県教育委員会	生徒指導支援室	電話	0744-32-9505	
職名	指導主事	氏名	高木 一矢	よみがな	たかぎ かずや